

忍中学校 博学連携年間計画

生涯にわたって学び続け

博物館はいつでも使える
学習の場

行田のまちの魅力を
発見・発信

郷土に愛着をもてる生徒を育てる

総合的な学習の時間

社会科(歴史分野)との関連

行田の魅力を
再発見!!

1年生

古墳時代

さきたま史跡の
博物館と連携

我が国と東アジアとの
つながりを考える授業



行田のまちについてテーマを
決めて調べ、まちの魅力を再
発見! 博物館では、学芸員か
ら行田の文化財の魅力を聞き
ます。

博物館の教育資源を
フル活用



さきたま史跡の博物館
の協力を得て、埴玉古
墳群から出土した馬具
(馬の飾り)から東ア
ジアの歴史を捉える授
業を実施します。

大使館訪問

2年生

江戸時代

行田市郷土博物館
と連携

黒船来航時の忍藩の活躍について
考える授業

見つけた行田のまち
の魅力をパンフレットの
にまとめ、英語の
紹介原稿もつくりま
す。
大使館では、英語で
まちの魅力を伝えら
れるよう、スピーチ
の練習をします。



自作の紹介パネルと特産の足
袋を見せながら、まちの魅力
を英語でスピーチします。



行田市郷土博物館の
学芸員から幕末の忍藩
(行田市)の活躍の
様子を捉える授業を
実施します。

部活動でも博物館利用!

美術部の生徒がさきたま史跡の博物館で
体験学習補助のボランティアに挑戦!!



修学旅行

大使館訪問で学んだまちの文化と京都・奈良
の文化を比べながら学びを深めます。

3年生

行田市立忍中学校

行田の魅力を 世界に発信

まちの魅力を再発見!
世界の国々の大使館で英語でスピーチ!!



まちに出て
学ぶ



わたしたちがまちの魅力を
伝えます!!



博物館で
学ぶ



手作りの
パンフレット



世界の国々の魅力も
学びます

文化交流でまちの魅力を再発見



博学連携を成功させる

虎の巻

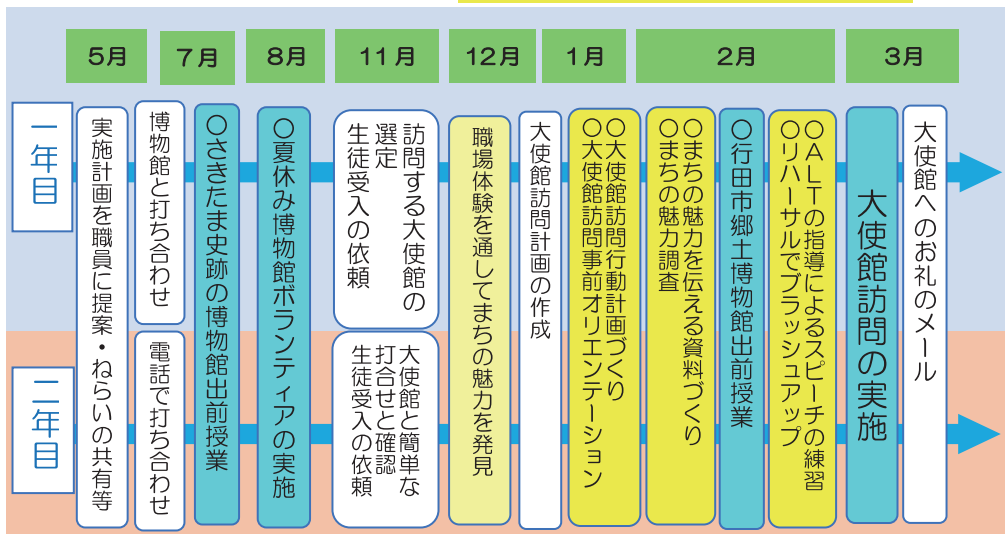
○郷土の魅力の世界に発信する
まちの外からながめることで、郷土の魅力は一層よくわかります。世界の様々な国の方に、郷土の魅力や歴史、評価をしてもらうことは、生徒の自信につながり、郷土への愛着は強くなります。訪問先「自国の言葉以外(英語)で、故郷のよさを伝えてくれたあなた方の取組は、私たち外交官に、勇気を与えてくれます」と声をかけられた生徒は、とても誇らしげでした。

○教員もまちのことを学ぶ
本校には、行田市の出身ではない教員も多く、博物館に直接行って、学芸員の方と打合せをする中で、まちのことを学ぶことができました。教員が、まず、まちのことを知ることが、生徒にも胸を張って指導ができますし、まちの魅力を生徒とともに見つける喜びも感じることができました。

○博物館の機能をフル活用する
博物館には、学校教育で活用できるたくさん機能があります。出前授業をお願いしたり、生徒が訪れて学習することはもちろん、生徒の質問に答えてもらったり、教材を貸してもらったりすることもできます。本校では、美術の時間に、教材として複製のレプリカを借りました。

まちを舞台に博物館と授業をつくる

「行田の魅力の世界に発信」の実施スケジュール



まちの魅力を発信しよう

テーマを設定

小学校での学習体験や生活経験から行田のまちの歴史や文化から調べるテーマを設定



まちの魅力を発見

主体的:学習の動機付け
わたしが見つけた魅力!だれかに伝えたい!!

行田のまちに出て、工場や店舗を訪ね、人と話したり実物を見たりしたことが、まちの魅力を再発見へとつながる。



博物館で行田の歴史や文化を実感しよう!!

- ・生徒に目的をもって博物館を利用させる。
- ・学芸員の協力を得て生徒の自主性を伸ばす。
- ※過剰に教えない。目的に合った対応。

学びあい高めあい

対話的:協働による課題解決



調べたことをまとめて発表

- ・テーマごとに、新聞にまとめて発表する。
- ・発表を聞きあい、より魅力を伝えられるように改善する。
- ・英語のスピーチはALTに指導を受ける。

実社会への発信

深い学び



東京の各国大使館で

- まちの魅力をPR
- ・行田について学んだことをもとに作成したパンフレットをもって世界の国々の大使館を訪問し、まち魅力をアピールする。

【国際理解教育の視点】

国際理解教育において、他の国の人々と交流するテーマとして、「文化」は最適であるといわれています。自らの歴史や文化の魅力や、世界の国々の文化の魅力を学ぶ多文化共生の素地を生徒に育む教育計画です。

【学びの主体を育てる教育計画】

「何のために学ぶのか」を生徒一人一人に意識させ、学習の動機付け、協働による課題解決、達成感・充実感を学び続ける力に変える学習展開を、教育計画に位置づけています。

博学連携の成果

①生徒が主体的に学ぶ授業の実現

博物館・美術館と連携して授業を行うことで、社会科や美術科、総合的な学習の時間に地域の資料や実物・レプリカなどを教材として提供してもらった。教材研究へのアドバイスもあり、授業の質を一層高めることができた。教師が、博物館職員と役割分担して指導し、教材となる文化財と生徒の間をつなぐことで、生徒の主体的な学びを引き出すことができた。

②生徒が郷土に愛着をもつ

生徒は、自ら見つけた「まちの魅力」を世界に発信し、交流することで、郷土のよさを再発見することができました。大使館訪問後の感想からは、「行田のよさをほめてもらえてうれしかった」「他の国のよさも知ることができたので、もっと仲良くなりたい」などの言葉が見られました。

③生徒に生涯にわたって学び続ける態度が身につく

博学連携の授業を行った後、夏休みに博物館のボランティアに参加したり、忍城や埼玉古墳群などの文化財に興味をもち、史跡や博物館に何度も通ったりする生徒も見られました。実物から学ぶことを積み重ねることで、生徒に学びに向かう姿勢が身につきました。

学校と博物館・美術館をつなぐ 学びのデザイン皿

行田市立忍中学校のデザインの特徴
①学びの主体を育てる。
②多文化共生の素地を育てる。
③博物館で学ぶことのよさを実感できる。